



「Les Docks, Cité de la mode et du design」34, quai d'Austerlitz 75013 Paris
<http://www.paris-docks-en-seine.fr> TEL01 76 77 25 30 展示スペース:10時~18時 月曜休 フェイク:10時~19時営業 日曜休
 1 コム デ ギャルソンによる白いアイテムを集めたエキシビジョン「COMME des GARÇONS White Drama」(~10月7日)より。2 夏場はレストランがオープンスペースに。3 ヨガのレッスンを取り入れたコレットのパーティからのスナップ。4 枝豆のようなグリーンの外観が印象的。

世界
4か国からの
最新情報を
ピックアップ!

Who's Next
What's Next

LES DOCKS, CITÉ DE LA MODE ET DU DESIGN

モード&デザイン学園都市レ・ドック

ファッションの一大中心地となりつつあるモード&デザイン学園都市レ・ドックに注目したい。もともとカーペット量販店だった場所をジャコブ+マクファーレン設計のもとで改装し、今年4月に正式オープン。それ以前より、2008年からフランス・モード研究所(IFM)が校舎として、ドリス・ヴァン・ノッテンなどのデザイナーがパリコレのショー会場として、またランバンがショールームとして利用し、業界内で認知され始めていた。セレクトショップのピガールや、新しいクリエイターによる服を展示するウインドスペースなどが立ち並び、前号でも紹介したパレンシアガの展覧会とコムデギャルソンの展覧会を開催しているガリエラ服飾美術館による二つの展示スペースも設けられている。更にバーレストラン「ワンダーラスト」などの飲食・クラブスペースも充実で盛りだくさん。コレットなどによるファッション系のパーティも頻繁に行なわれ、今の新しいパリのモードがぎゅっと詰まった場所といえるだろう。

AVELON

アヴェロン



パリの展示会で発表しているアヴェロンは、今後の活動が気になるブランドの一つだ。デザイナーのエリック・フレンケンはおランダ・アムステルダム出身。ハーグの王立芸術アカデミーを卒業後、イギリスのセント・マーティンズ美術大学で修士号を取得し、アルベルタ・フェレッティを経てヴィクター&ロルフのレディースラインのチーフを4年務めた経験を持つ。2008年にオランダのブルー・ブラッド傘下のアヴェロンのチーフデザイナーに就任し、2011年よりメンズとレディースのすべてのコレクションを手がけている。コレクションからうかがわれる雰囲気は、ディテールを詰め込みすぎることなくシンプルでエッジー。素材の特性を生かした適度なボリューム感があり、バランスのとれたシルエットは高い完成度を見せる。フレンケンは時代を巧妙にとらえることにたけているようだ。それは、ブラウンスやオープニングセレモニーといったトップレベルのショップからセレクトされた実績を持つことでも証明されている。日本ではヴィア バス ストップやルイスなどで展開中。

1 レディースコレクションSS'13より。ケープのようなトップと箔加工したデニム。2 レディースコレクションSS'13より。ボトムにボリュームを持たせ、チューブトップを合わせたセットアップ。3 メンズコレクションSS'13より。ライダースを合わせてカジュアルでもフォーマルでもないスタイルを提案。4 レディースコレクションSS'13より。サルエルスタイルのパンツで崩したスーツ。 <http://www.avelon.me>



PA
RIS

text & photographs :
Tomoaki Shimizu
清水友樹 ●パリ在住。ステューディ
ベルソー卒業後、いくつかのブランドで
研修を経て、主にファッションを扱うジ
ナリストに。ライフワークは週末の蚤
市・古物市めぐり。レコードと古いぬい
ぐるみ集めが趣味。



SÉVERINA LARTIGUE

セヴリナ・ラルティエグのコサージュ

有名メゾンとのコラボレーションで名をはせるセヴリナ・ラルティエグのコサージュは、女性らしさと繊細さを兼ね備えた、正にフランスらしい優美さそのもの。しっとりとした花びらの質感をみごとに再現する彼女の手仕事は、200年以上の伝統を継承するものでありながら、常に発展の一途をたどっている。アシスタントを使うことなく、素材選び(シルクを中心にした布、革、紙、メタル)、型紙作り、切抜き、染色、こて当て、組立てのすべての過程を一人でこなし、長年コサージュに関する古い資料を収集し研究を重ねてきた。ある時、大量の造花用こてを蚤の市で見つけたものの、手段を持たない彼女は、散逸を避けるため大手チュールメゾンに情報提供し、すべてを買い取らせたとする逸話も残っている。常に身につける人のことを考えながら作っているというラルティエグ。今年10月末には阪急うめだ本店内にあるノージュにて彼女のコサージュが販売される予定で、日本初上陸となる。

1 直線と曲線の組合せがアール・デコを思わせる。2 本物の花かと思いがほどの完成度を見せるコサージュ。3 ノルマンディー地方にあるアトリエ内のセヴリナ・ラルティエグ。